

2024年度

ボートレースチャリティ基金協力 事業完了報告



ボートレース
チャリティ基金委員会

ボートレースチャリティ基金とは



ボートレースチャリティ基金は、2001年に、日本財団会長笹川陽平氏がWHOハンセン病制圧大使に就任したことを機に、ハンセン病に苦しむ人々の支援のため、公益社団法人日本モーターボート選手会の声掛けにより設立されました。

基金の原資は(1)選手会全会員からの寄付、(2)チャリティイベントやレースの優勝賞金等選手個人やボートレース関係者からの寄付、(3)チャリティオークションの実施、からなっており、(1)はボートレースチャリティ基金選手会口、(2)-(3)は同オークション他口に積み立てられています。選手会口は、ハンセン病患者・回復者やその家族の教育支援に、オークション他口は生活環境改善、経済自立支援、ハンセン病対策や災害支援等幅広い用途で使用されています。

毎年、日本モーターボート選手会代表、チャリティオークションを運営する日本レジャーチャンネル代表取締役、日本財団理事、笹川保健財団会長からなる「ボートレースチャリティ基金委員会」にて、前年度の事業実績の確認と次年度の基金の用途の検討が行われます。



選手会口

選手会口は選手会所属の全ポーターの皆さまから頂いたご寄付からなっており、ハンセン病患者・回復者及びその子どもたちに対する教育支援に使用されています。

2003 年度から2017 年度まで15 年間で第1 次～第4 次教育支援を行い、インド、ネパール、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム7 개국において、のべ5, 525 人が小中学校、高校、大学、専門学校へ通う事が出来ました。2019 年度から2024 年度までは、第5 次教育支援として、WHOハンセン病制圧大使が訪問し視察を行ったインドとバングラデシュで支援を行い、のべ1, 727 人が教育を受けることができました。

収入支出状況 2025年3月末

収入年度	事業期間	収入	支出
2002 年度 第1次教育支援	2003-2009年度	¥ 15,310,000	¥ 14,952,585
2008 年度 第2次教育支援	2009-2013年度	¥ 12,585,965	¥ 11,947,129
2010 年度 第3次教育支援	2010-2014年度	¥ 11,908,005	¥ 10,663,364
2014 年度 第4次教育支援	2014-2017年度	¥ 15,000,000	¥ 15,613,005
2019 年度 第5次教育支援	2019-2023年度	¥ 15,000,000	¥ 16,565,141
2024 年度 第6次教育支援	2024-2027年度	¥ 15,000,000	¥ 4,532,298
総計		¥84,803,970	¥74,273,522

2024年度末時点での残額
¥10,530,448



オークション他口

オークション他口は、ポートルーサーの方々からご提供いただいたグッズをオークションにかけた収益金（下記、オークション）と、チャリティイベントやレースの優勝賞金等選手個人やポートルース関係者からの寄付（下記、オークション以外）から成り立っています。オークション他口では、各国のハンセン病患者・回復者やその家族の生活環境改善や経済自立支援、ハンセン病対策や災害支援など様々なプロジェクトを行っています。

収入/支出状況 2025年3月末

収入年度	オークション	オークション以外	合計	支出
2001年-2019年	¥ 64,149,511	¥ 57,597,024	¥ 121,746,535	¥ 110,115,832
2020年	¥ 9,226,377	¥ 1,612,000	¥ 10,838,377	¥ 6,251,613
2021年	¥ 6,189,942	¥ 1,452,000	¥ 7,641,942	¥ 6,868,001
2022年	¥ 5,421,772	¥ 1,713,200	¥ 7,134,972	¥ 8,070,469
2023年	¥ 5,640,525	¥ 1,648,284	¥ 7,288,809	¥ 7,197,461
2024年	¥ 5,481,326	¥ 1,891,590	¥ 7,372,916	¥ 11,871,279
総計	¥96,109,453	¥65,914,098	¥ 162,023,551	¥ 150,374,655

2024年度末時点での残額
¥11,648,896

2024年度支援事業一覧



2024年度はポートルースチャリティ基金から以下の事業を支援しました。

選手会口	事業名	支出額
バングラデシュ	ハンセン病回復者への寺子屋教育支援 (3年事業1年目)	¥4,532,298 (p.3)

オークション他口	事業名	支出額
バングラデシュ	ハンセン病回復者のメンタルヘルス向上支援 (3年事業1年目)	¥5,336,270
ネパール	ネパールにおける多世代への教育を通じたハンセン病 回復者の自立支援	¥1,260,509
ネパール	アナンダバン・ハンセン病病院洪水被害復旧支援	¥5,274,500
オークション他口計		¥11,871,279 (p.4)

2024年度 選手会口 オークション他口 支出額 総計 ¥16,403,577

バングラデシュ

ハンセン病回復者への寺子屋教育支援（3年事業1年目）

支援先：ALOソサエティ、TLMバングラデシュ
事業期間：2024年4月1日～2025年3月31日
支援額：¥4,532,298

バングラデシュでは世界で4番目にハンセン病新規患者数多い国となっています。特に最貧困地域において感染が集中しており、ハンセン病は依然として公衆衛生上の重要課題です。しかし、医学的課題以上に深刻なのは、患者や回復者、その家族が直面している社会的排除です。患者や回復者は社会から孤立し、教育・医療・雇用等の機会が制限されています。

当事者組織であるALOソサエティは2014年に設立されました。現在、89の連盟と1,500の自助グループを擁し、約17,000人の会員とともに、全国64地区中40地区で活動しています。長年バングラデシュで活動する国際NGOであるTLMと連携しながら、当事者主体のエンパワメントを進めています。

TLMバングラデシュの調査によると、自助グループメンバーの37.8%は教育を受けた経験がなく、多くが日雇い労働に従事しています。バングラデシュでは初等教育への就学率は97.85%と高水準にありますが、退学率は18.6%と依然高く、特に貧困家庭の子どもたちが影響を受けています。子どもは家計を支える労働力として期待されることも多く、欠席が増え、学習に遅れが生じ、最終的に退学へと至るケースが少なくありません。その結果、将来の就労機会が限定され、貧困が世代を超えて再生産されるという悪循環が続いています。

本事業は、この悪循環を断ち切ることを目的としています。ALOソサエティのメンバーおよびその家族から大学生を選抜し、学業継続のための少額支援金を提供する代わりに、彼らがコーチとして地域の子どもや成人に無償で教育支援を行う仕組みを構築しました。大学生が支援の受益者であると同時に、コミュニティへの貢献者となる相互扶助型のモデルです。

2024年4月に開始した事業では、90名の大学生が支援を受けました。彼らはコーチとして、小学生286名、中学生215名、成人210名に対し、週5日、1日1.5～2時間の学習支援を実施しました。ベンガル語、英語、算数などの基礎科目を中心に、学力向上と基礎教育の補完を目指しました。

また、2024年7月から8月にかけて、バングラデシュでは広範なデモが発生し、ダッカ、チッタゴン丘陵地帯（CHT）、シレットの一部地域で数日間活動が中断されました。また、支援を受ける大学生自身の学業にも影響が及びました。しかし、状況が改善する中で、学生たちは速やかに活動を再開し、教育支援を継続しました。事業の柔軟性と、参加者の強いコミットメントを示しています。

本事業の成果として、成人学習者210名が基本的な識字能力を習得するなど、若者や一人ひとりの将来の選択肢が広がりつつあります。



バングラデシュ

ハンセン病回復者のメンタルヘルス向上支援（3年事業1年目）

支援先：ボグラ連合、レブラ・バングラデシュ

事業期間：2024年4月1日～2025年3月31日

支援額：¥5,336,270

バングラデシュでは、ハンセン病に対する偏見と差別が依然として根強く残っています。患者や回復者は地域社会から排除されたり、時には家族からも見放されるなど、深刻な社会的孤立に直面しています。特に女性は二重の差別を受けやすく、うつ病や不安障害などの精神疾患を発症するケースが多いことが報告されており、身体的支援と並行した精神的支援の必要性が高まっています。

本事業は、ボグラ県を拠点とする当事者組織であるボグラ連合と、英国の国際NGOレブラの連携により実施されています。ボグラ連合は2014年に認可を受け、県内12地区に広がる101の自助グループに1,030人（男性474人、女性556人）が参加する地域密着型組織です。2018年以降、当事者の中から一定の基準を満たす人材を「メンタルモチベーター（ピアカウンセラー）」として育成し、ハンセン病患者・回復者に対する心理社会的支援体制の強化に取り組んでいます。当事者による支援は、信頼関係の構築と継続的フォローアップの両面で重要な役割を果たしています。

2023年度に実施したエンドライン調査では、対象者の約4分の1が重度の抑うつ症状または不安症状を示していることが明らかになりました。これを踏まえ、2024年度は重度障害（G2D）を有する300人を対象に、身体的および精神的ウェルビーイングの向上を目的とした包括的支援を実施することになりました。

身体的健康の側面では、セルフケア研修を通じて自己管理能力の向上を図りました。また、足潰瘍を予防するための保護用フットウェアの提供を2024年より開始しました。足の採寸に基づくオーダーメイド靴を150人に提供し、合計275人が適切な保護靴を受け取りました。これにより障害の進行抑制と二次的合併症の予防が促進されました。

2024年7月に発生した国内大規模学生デモの影響により、8月には午後6時以降の無期限外出禁止令が発令され、活動は一時的に縮小を余儀なくされました。しかし、スタッフおよび対象者の安全を最優先にしながら、可能な範囲でメンタルヘルス支援を継続しました。社会不安の中にあっても、心理的支援を止めなかったことは、特に脆弱な立場にある当事者にとって重要な安心材料となりました。

精神的健康の側面では、ピアカウンセリングおよび家庭訪問を中心に支援を実施しました。2024年度終了時点で、289人に対して合計435回の家庭訪問が行われました。また、61人に対して計300回のカウンセリングが実施され、そのうち59人が精神的健康において、「自分の心の問題に向き合えるようになった」といった内面的なポジティブ変化が見られました。孤立の緩和、自尊感情の回復、家族関係の改善など、質的变化も確認されています。



ネパール

ネパールにおける多世代への教育を通じたハンセン病回復者の自立支援

支援先：ラルガハンセン病病院・サービスセンター

事業期間：2023年11月1日～2025年3月31日

支援額：¥ 1,260,509

ネパールの識字率は2020年時点で68%（世界銀行）と、世界平均の86.8%を大きく下回っています。なかでも本プロジェクト対象地のマデン州は、事業開始時の識字率が63.53%と国内最低水準でした。同州は多次元貧困指数（MPI）が国内で2番目に高く、特に女性の識字率が著しく低い傾向にあります。加えて、2020年以降の新型コロナウイルス流行により経済状況が悪化し、教育の中断を余儀なくされる児童が急増しました。また、ハンセン病回復者によるセルフヘルプグループ（SHG）においても、基礎的な読み書きや会計能力の不足、教育への意識の低さが課題となっていました。

本事業では、ハンセン病当事者とその家族を含む幅広い世代を対象に、「フォーマル教育（学校教育）」、「ノンフォーマル教育（識字教育）」、「職業訓練」の3軸を並行して実施しました。これにより、コミュニティ全体の教育・就業能力を底上げし、生活の質（QOL）の向上を図ることを目的としました。

上記計画に基づき事業を実施した結果、以下を達成しました。

- 次世代への教育支援：マデン州在住の児童30名に対し、初等・中等・高等教育の継続機会を提供。女子教育の重要性を啓発することで、ジェンダーを問わない教育への共通認識を醸成しました。
- 識字能力の向上：SHGメンバーを対象とした識字教育を実施し、60名が修了試験に合格。結果として、対象グループ内における識字率は98%に達しました。
- 経済的自立の促進：運転、美容、裁縫、携帯電話修理の職業訓練を実施。受講生は専門技能を習得し、修了後、全員が就業または起業に至りました。



本事業を実施した結果、対象コミュニティに以下のような多層的な変化をもたらしました。

- 生活利便性と自信の向上：識字教育により、銀行での自筆署名や手続きが単独で可能となりました。これにより、行政・社会活動へ自信を持って参加できる副次的な効果も生まれています。
- 尊厳の回復と自立：技能修得は単なる収入源の確保に留まらず、参加者の経済的自立と人間としての尊厳の醸成に寄与しました。
- 世代を超えた好循環：2024年8月の現地モニタリングでは、裁縫技術を学んだ女性がミシンで生計を立て、自らの子供には教育を受けさせようと奮闘する姿が確認されました。支援が単発の経済援助に終わらず、次世代の教育格差を是正する原動力となっています。

本事業は、カースト、階級、年齢、性別を問わない包括的な支援モデルとして成果を収めました。個々の所得向上という定量的成果以上に、「生活力」と「尊厳」を取り戻し、偏見や差別を乗り越えて社会参加を促した点に、本事業の真の意義があります。今後もこの成果を基盤とし、持続的なコミュニティ発展への波及が期待されます。



ネパール

アナンダバン病院における擁壁工事プロジェクト

支援先 : The Leprosy Mission Nepal (TLM Nepal、対象となったアナンダバン病院の運営母体)

事業期間 : 2025年3月1日～2025年6月30日

支援額 : ￥ 5,274,500

2024年9月28日、ネパール全土を襲った記録的な豪雨により、ラリトプール郡のアナンダバン病院近隣で大規模な土砂崩れが発生しました。この災害により、同病院の病棟は甚大な被害を受け、病院スタッフ1名が殉職するという悲痛な事態となりました。発災直後、ネパール軍による救助活動と避難誘導が行われましたが、施設内は汚泥と瓦礫に埋め尽くされ、医療機能は一時停止しました。しかし、周辺地域でも負傷者が相次いだことから、過酷な状況下においても早期の診察再開が急務となりました。

当財団では、50,000米ドルの緊急支援を決定し、うち15,000米ドルについては用途を特定しない緊急援助支援、残りの35,000米ドルをプロジェクト型で実施しました。2024年12月の現地視察および院長との協議を経て、二次災害の防止と病院機能の安全確保のため、最も優先度の高い「擁壁」の再建を支援することを決定いたしました。

実際の工事は、2025年3月1日に開始され、6月に完了しました。これにより建物の脆弱性が軽減されるだけでなく、人々が安心して医療を受けられる環境を回復させることができました。擁壁の建設は、利用者が容易に医療にアクセスできる場所や、リスクの高い建物周辺といった優先度に基づいて進められ、小規模な場所から大規模な場所へと段階的に実施されました。6月末までに約4,000人のハンセン病患者と約15,000人の一般患者が様々な医療サービスを受けることができました。なお現在、病院のサービスは順調に再開され、患者は適切な医療サービスを受けています。

